

グループホーム天鼓(てんく)

平成 21 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271900258		
法人名	有限会社 セブンワーカーズ		
事業所名	グループホーム天鼓 (1・2階ユニット)		
所在地	千葉県匝瑳市飯倉台10-15		
自己評価作成日	平成22年2月3日	評価結果市町村受理日	平成22年4月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の「満足と幸せ感」の探求
社員研修を継続し、知識と判断力の向上を図り、良質なケアにつなげる
「認知症ケア」に於て地域で特化する

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム天鼓の法人代表は豊富な人脈を活かし福祉関係者の講演会を頻繁にホームで開催し、職員の知識や技術の向上に役立てている。また、代表自身が県の生涯大学で認知症について講義したり、職員が回想法について地域で話をする等している。毎日実施している足湯は入居者から人気を得ているサービスであり、マッサージをしながらのコミュニケーションは大切なひと時でもある。畑では野菜を種から育て、入居者も一緒に収穫し献立に取り入れている。近隣住民との関係では、運営推進会議の参加や災害時の協力体制も確立されており、まさに地域密着型のホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(1・2階ユニット)および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年の全体会や、幹部会議を行って理念の確認をしている。日々の介護の中でやっていることが、理念に沿っているかは、常に話し合いをしている。	ホームの理念がリビングや事務所に貼られている。法人代表は理念の重要性を常に職員と話し合い、それに沿ったケアを実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園、小学校、中学校の生徒や生涯大学の皆様の受け入れをしている。祇園祭り、1日デイサービス、ゴミ運動へ参加している。近隣の方も良く来て下さる。	自治会に加入し、地域の祭りや奉仕作業に参加している。近隣住民がホームを来訪し、談笑することもある。また、フラダンス、尺八、琴、踊り、ハーモニカ、民謡と多くのボランティアの受け入れがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月全体会(地域拡大認知症研修会)地域の人々に参加して頂けるように呼びかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、個々の介護状況の報告・スケールや事例検討や事故報告をする事により、色々な意見やアドバイスをもらい、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は3ヶ月に一度行っている、参加者も多く、行政職員、民生委員、老人会、近隣住民のほか大勢の家族の出席があり、ホームの状況や外部調査の報告、意見交換などを行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内推進会議へは必ず出席して下さる。部屋の空き情報や取り組み内容などの情報を定期的に行なっている。	役所には定期的にホームの状況を報告している。職員の知人が役所勤務ということもあり、ホームを訪ねて来ることも多く、相談しやすい関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも玄関の鍵は開いていて自由に入出入りができるようになっている。入居者様の行動を妨げないようなケアをスタッフ全員で行なっている。	事務所には「身体拘束はしない」の張り紙もあり、全職員には拘束による弊害の認識が徹底されている。日中玄関はいつでも自由に入出入りできる状態である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	進んで研修に参加し、学んできた内容についてはスタッフ全員に参加者から発表、講習にて浸透するようにしている。		

グループホーム天鼓(てんく) 自己評価(1・2階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県の勉強会に参加したスタッフにより、職員には4～5回の研修会を開催している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には天鼓の様子がよく分かる様にいつでも何度でも見学に来て頂き不安なく入居していただける様に説明している。解約時についても十分な話し合いをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会による話し合いを自主的に行なっている。その後運営推進会議等での話し合いを行なっている。	運営推進会議当日に開かれる家族会で意見を聞いている。また、家族の面会時にも意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会や、毎月の天鼓会議の時に職員が気軽に意見を交換できるようになっている。日々の支援の中でも、意見や提案を大切に業務を行なっている。ケース会議も月5～6名開催している。	会議の場でも、日常業務の中でも、職員が意見をいいやすい雰囲気がある。出された意見は、できるだけ運営に反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績に応じた給与水準の見直しを行なっている。スタッフの個人的状況も鑑みている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の学びたい研修への参加に対して積極的なバックアップがある。法人内での研修でも外部からの講師を頼むなど取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での勉強会や、外部からの講師による勉強会を行っている。親しくしているGHオーナーと定期的に会議を持っている。		

グループホーム天鼓(てんく) 自己評価(1・2階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと、ご本人様と向き合う。話し合いの出来る方とはケース会議にも参加してもらい、本人の意向を聞いている。礼節と尊厳を持って傾聴する。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、重要事項説明などの内容をきちんと説明し家族の要望を聞き、受け止める。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間を十分にかけて、家族の要望を把握し、一緒に介護計画の作成に努める。ケース会議に参加して頂ける様必ず手紙を出している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、洗濯物の整理など、スタッフと一緒にこなしている。誕生会などの行事と一緒に企画する。本人の希望を入れている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会できる雰囲気作りや、外出時には、家族の協力への呼びかけをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時に自宅にお連れしたり、住んでいた近隣の友人がホームに訪問してくれている。お墓参りにお連れしたり、お祭りの時には利用者様宅に呼んで頂き、毎年思い出作りをしている。	地域の祭りのときに神輿の休む場所に当たっている入居者の家族が家を開放してくれて、その時は入居者と揃って出かけ、祭りを楽しんだ。また、近所の美容師が定期的に訪問美容で来訪してくれる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が築かれ、支え合えるような支援に努めている	体の丈夫な方が車椅子の方の手助けを自然に行なっている。声掛けや食事の介助などお互いを思いやる、あたたかい関係作りができている。		

グループホーム天鼓(てんく) 自己評価(1・2階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時に入居者様の面会に行ったり他の施設に移られた方の所にも落ち着かれる迄訪問をしている。亡くなくても葬儀に参加している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と向き合い、その中から意向を汲み取る。	本人の発信している気持ちの把握が困難であっても、目線を入居者にしっかり合わせ、時間をかけた傾聴によって思いを汲み取る工夫をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時による生活歴の確認をし、日々の生活に生かせるように介護している。畑の好きな方には畑に連れ出し、料理の好きな方は、一緒に調理するなどする。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックをはじめ、食事摂取状況、一緒に活動する事により体調の変化に気をつけて介護をしている。できる事できない事の把握をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを開いて、本人家族を交えて、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を立てている。ケース会議3ヶ月に一度行っている。毎月のケア計画は職員全員で考えている。	ケース会議は家族、生活相談員、居宅支援の介護支援専門員、看護師、職員等が多数参加し意見や考えを出し合い、共同で介護計画の作成をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の過ごし方の様子や本人の言葉を大切に記載して、生活記録に残している。スタッフ間で情報を共有し介護計画に活かしている。ケア計画は常にモニタリングしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	回想法などを用いてその方のニーズを引き出し希望する事があれば対応できるように、皆で話し合っている。小さな言葉をひろって希望を満たす為外出する事もある。		

グループホーム天鼓(てんく) 自己評価(1・2階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。又幼稚園や小学校の運動会へ参加し幼稚園生によるクリスマス会、慰問を受けている。地域で民謡やフラダンスやってる方の慰問を受けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携があり、皆月1回往診してくれる。必要時の検査や指示をもらう。来所時施設長や職員と看取りの話を気軽にしてくれる。	入居前からの主治医と協力医療機関への受診支援をしている。夜間の緊急時も協力医が往診してくれる体制となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りを通し細部までの情報交換をする。作業伝達は2～3名でも集まって行なうようにいわれているので良くやっている。職員用ノートによる伝達をやっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の連携により、情報交換、医療相談ができています。家族にも望まれて一緒に病院へ行く事も多々ある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議、家族会による看取りについての話し合いをしている。方向づけを話し合っている。	重度化、看取りを前提に本人の身体観察スケールと身体・精神・社会機能評価表を記録し、実情が把握できるようにしている。また、ホームのできることを家族に説明し、本人、家族の希望を尊重することを方針にしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月2回の定例の勉強会にて応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議や地域との活動の中で協力体制を築いている。年2回の防災訓練、災害訓練で話し合いをしている。全員参加している。	災害時の緊急マニュアル、防火マニュアル、火災時の手順が詳細に書かれ掲示されている。災害対策での近所との協力体制は整っており、災害通報装置を使った避難訓練も実施した。	

グループホーム天鼓(てんく) 自己評価(1・2階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿って礼節と尊厳の心を持って、入居者様に接している。個人情報大切に取り扱いしている。排泄等についてもそれとなく、個室に誘導対応し、傷つけないよう心がけている。	礼節が周知され、子供言葉、否定言葉、暴力言葉は禁句として徹底をしている。とくに失禁時にはプライドを守るために語調に気をつけるようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はこちらです。などと手で示したりしながら誘導している。物事を始める前に分かりやすい説明を心がけ、ゆっくりと話しかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人、お一人が今何をしたいかを考え個別的なケアを重視している。その日の天候や入居者様の希望に合わせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれ、かかり付け理容、美容室にお連れしている。たのめば、すぐ訪問してくれる美容師さんもいる。アドバイスしながら洋服選びをし、季節に合わない時にはさりげなく部屋で着替える。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや、盛り付け、配膳食器拭きなど、利用者と職員が楽しく会話をしながら行っている。動ける方は良くやって下さる。歩けない方も楽しく参加できる様会話している。	パソコンのメニューソフトを導入し、入居者の好みと栄養を考えた献立となっている。また、語り掛けを頻繁に行い毎日の食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いがあったり、食欲の少ない方は、好きなもので、補食を用意する、誤嚥の心配な方には、トロミをつけるなど、その人にあったものを用意する。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の口腔ケアは誘導しながら全員にして頂くようにしている。朝、昼はできる方のみになってしまっている。		

グループホーム天鼓(てんく) 自己評価(1・2階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを書類上でつかみ、スタッフで協議し、時間に合せて、トイレ誘導している。排泄を尿、便ごとに、記録し水分量の検討をしたり、下剤の調節をして、気分よく過ごしてもらえるように支援している。	柔らかい吸収性に優れたボクサーパンツを取り入れてオムツを減らそう運動を試行中である。排泄自立をホームの目標として、入居者一人ひとりに合った支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をし、寒天寄せなどセンイや水分量、牛乳など、その人に合わせたメニューの取り組みをしている。腸内細菌のための食べ物を用意している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人の希望にあわせた時間に個々に合わせた声掛けをしている。一緒に着替えを準備している。	機械浴の設備はあるが使用せず、本人の身体機能を低下させずリハビリ効果を生む入浴支援をしている。毎日1人に20分かけて実施している足浴は、コミュニケーションをとる大切なひと時でもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しをしたり掛け物の工夫をし、常に清潔を心かけ、室温を見ながら睡眠導入している。前夜の睡眠不足の人などは昼寝の誘導を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ナースとの連携により、目的、副作業の確認をし体調の変化の見守りをする。個別服薬、管理、飲ませた人の責任を明確化、変更時は全員が確認できるようになっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物の整理、食事作り、片付け、配膳など出来ることを活かし活動してもらおう。買物同行、散歩による気分転換、自力歩行の困難な方には付き添っての外出散歩。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やボランティアにも参加して頂きバス旅行や、ホテルやバイキングにも出かけている。	普段は近くの公園で散歩したりブランコを楽しむこともある。また、外出を多く取り入れている。近所の馴染みの人が車椅子を押して一緒に戸外に出かけていくこともある。	

グループホーム天鼓(てんく) 自己評価(1・2階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時や受診時に入居者にお金の支払をお願いしたりする事もある。外出先での買物時、自分のお財布から支払をしていただいています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話が出来るよう、操作の手伝いをしたり、お手紙は、そのままご本人にお渡しする。自分の書いた手紙と一緒にポストまで出しに外出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、朝夕温度、温度の確認をし、心地良い温度を保っている。春や夏、クリスマスやお正月等、季節感を感じて頂けるような飾りつけをしている。	リビングにはお雛様のほか、沈丁花、ランの花々が飾られ季節感を出していた。また、廊下には入居者と職員と一緒に折り紙で創作した月毎の風習を大きな作品にし、壁に貼り出し空間を引き立てている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子で皆様と一緒に歌ったりレクリエーションに参加できるようにしたり、利用者様同士で、離れた場所で静かに話せる場所作り。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具やアルバム、趣味の物などを、本人や家族と相談しながら、持参してもらっている。	居室には使い慣れた鏡台、箆笥や仏壇が置かれ本人の気持ちが大事にされている。居室は掃除を一緒にして居心地のよい環境の実現に努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所は、利用者様の目の位置に分かり易く「便所」と表示したり、居室の入り口には、手作りの表札を下げたりわかり易くしている。洗濯物を、その人に合せた位置に持って行き、干してもらう。		